

導入事例

ダイハツ工業株式会社



カーデザインの現場にCintiq Companion導入 新しいワークスタイルの環境実現に一步



Cintiq Companion 2

☑ 導入前の課題

- 場所にとられない作業環境の構築
- 魅力的なアイデア創出と作業の効率化

☑ 導入後の効果

- どこでもデジタルスケッチができる、新しいワークスタイルが可能に
- デザイン作業の効率化を実現
- 場所にとられないワークスタイル環境の拡大
- デザイン業務に有効な使い方の展開と定着化にチャレンジ

ダイハツ工業株式会社は、“世界の人々に愛されるスモールカーづくり”を使命に掲げ、付加価値の高いクルマづくりを行っています。また創業から今年で110周年を迎え、きめ細やかな商品・サービスの追求とこれからの時代の生き方に合ったライトなモビリティライフの提供、2つのミッションに取り組み続けています。

同社デザインセンターでは2015年にCintiq Companion 2を数十台導入。目指したのは『場所にとられない作業環境の構築』と『魅力的なアイデア創出と作業の効率化』でした。これを実現するためにタブレット端末に注目。いくつかの端末を試用・検討した結果、描き味と描画エリア、本体サイズのバランスに優れているとの評価から、Cintiq Companion 2を導入しました。

導入に尽力したのは、造形デザイン室の田中公之祐さん。「既存の制作体制ではデザイナーとクレイモデラーが一体

となって作業を行うことが困難でした。デザイナーのデスクとモデル制作現場とが離れているため、どうしても必要な場合は自席のPCを運び込んで作業を行っていました。しかし、それでは作業エリアを確保するのに苦労します。どこでもデジタルスケッチが行えるようになったことは大きな一歩で、新しいワークスタイルへの環境実現に踏み出せたという実感があります」と語っています。

第1デザイン室 主任の大岡峻さんも、「Cintiq Companion 2は、好きな場所で思いついた時に描けるのが嬉しいですね。制作中のクレイモデルのスナップショットをベースに、スケッチを重ねていくなど柔軟なワークフローが可能になりました。今までは固定された作業環境の中でアイデア出しをしていましたが、自由な作業環境が魅力的なアイデアを生み出すのに役立っています。また、スキャンやトレースなどの必要がなく、試行錯誤が容易

なものデジタルならではのメリットです」と語ります。Cintiq Companionでの作業はスケッチや清書までとし、フィニッシュはデスクトップPCとCintiq 22HDでじっくり取り組むようにしていると言います。



同室 外形デザイナーの木村活太郎さんはCintiq Companion 2の描き味を高く評価しています。「スケッチを描く際に私が重要視するのは“描き味”です。Cintiq Companionは思い通りの線が引きやすく、ペンの質感が活きたと感じました」。PCに接続すれば液晶タブレットとして使えるのも木村さんが気に入っている点です。モバイル端末として使用できるとともに、既存の環境で普段のデザインツールとして使用でき早く慣れることができると言います。

コミュニケーションを含め デザイン業務全体の効率化に期待

「タブレット端末として使用できることから、多様なシーンで利用でき、業務コミュニケーションを円滑化できました。



CADオペレーターへの指示や役員へのプレゼンテーションツールとして活用しています。個人的には、デザイン作業をしながら現場でメールチェックしたり既存の業務ソフトが使えるようになったのが非常に嬉しいです」と語るのは同室 内装デザイナーの山下正洋さん。Cintiq Companion 2はデザインツールであると同時にモバイルPCでもあることから、様々な効果をもたらしているようです。「モバイル性を活かしたデザイン業務の効率化については、今後も様々な進展が望めるのでは」と期待を語るのは田中さん。こうした柔軟なワークスタイルを浸透させ、利用可能エリアを徐々に広げていきたいと考えています。「場所を選ばず、デザインワークやメディアの取り回しに使えるのが魅力的ですが、いまは片鱗をつかんだというところで、まだまだ活躍できる局面を見出していけるのではないかと思います」と期待を込めます。今後、カフェや自宅など場所にとらわれないワークスタイル環境の拡大を目指して、よりデザイン業務にとって有効な使い方の模索や展開、さらにその定着のための課題解決に順次取り組んでいきたいと語ります。

身近で愛される魅力的なクルマを造り出すために、同社のデザインの現場で、Cintiq Companionの活躍の場はますます広がっていきそうです。



左から田中公之祐さん、木村活太郎さん、山下正洋さん、大岡峻さん